

Deck Stage KAWAHAGI

# スタンダードタイプの専用竿 がまかつデッキステージカワハギ

●AC (アクティブコンタクト)、AR (オールラウンド)、SS (センシティブセンサー) と状況だけでなく、好みに合わせて選べる3タイプをラインナップ。糸絡みしにくいスパイラルセッティングでストレス軽減。軽量カーボンの本体に、ACとARはカーボンソリッドトップ、SSはグラスストップ仕様。購入しやすい価格帯のスタンダードタイプのカワハギ専用竿だ。



▼左からAC、AR、SSの穂先。SSだけがグラスで穂先もやや長め



▲糸絡みしにくいスパイラルガイド設定



▲オモリ30号をぶら下げての穂先の曲がり。手前からAC、AR、SS

タイプ	標準全長 (m)	希望本体価格 (円)	標準自重 (g)	仕舞寸法 (cm)	使用材料 (%)	モーメント	継数 (本)	先径 (mm)	錘負荷 (号)
SS	1.76	29,800	98	93.0	C96.0 G4.0	4.9	2	0.95	20-30
AR	1.75	29,800	98	92.5	C99.0 G1.0	4.9	2	0.9	20-30
AC	1.73	29,800	98	91.5	C99.0 G1.0	4.9	2	1.0	20-30

※C=カーボンファイバー、G=グラスファイバー。※モーメント=標準自重(kg)×竿尻から重心までの長さ(cm)。※上記の釣竿にはエポキシ樹脂を使用



▲当日は日曜日でもあり、賑やかな船上だった  
▶唇の皮1枚にハリ掛かりすることが多く、バラシも多かった  
◀納竿間際、竿頭を決めた1枚に得意のドヤ顔  
▶後半になって調子を上げてきた



▲スタートはACを使用して当たりダナを探った  
▼富浦沖ではSSが活躍した



## 名手、鶴岡克則が 南房エリアで 状況に合わせた 使用法を伝授

★デッキステージが気持ちよく曲がる場面を度たび披露してくれた(タイプAR)

# がまかつ デッキステージカワハギ 3タイプそろって新登場

▶船中1枚目、ホッとひと息の表情

Gamakatsu  
FIELD TESTER  
Katsunori  
Tsuruoka

●9月の声を聞くとともに、各地でカワハギ釣りがスタート。南房洲ノ崎～富浦沖もその一つで、良型がそろってファンにも認知されている釣り場だ。今回は名手、鶴岡克則が、がまかつのニューロッドを持参して、今期南房へ初釣りした模様をお届けしよう。

▲オモリ30号、ハリは食わせ4.5～5号、速攻4～4.5号など  
◀デッキステージカワハギを今期初の釣り場で使用

に誘い続けて22センチの2枚目をキャッチした。  
ここまで鶴岡さんが釣果を独り占めだったが、ようやく船中でも型を見せ始めた。いずれも20センチ前後の南房らしいサイズ、魚体もきれいで産卵後の体力も十分回復しているようだ。  
食いが落ちたところで富浦沖の水深20メートル前後へ移動。鶴岡さんはバラシのあとにARで1枚釣ると、最も軟らかいSSにチェンジ。  
「食いが浅いし、アタリも小さいからです。シリーズ中、SSだけがグラストップなので穂先がよく動かし、食い込ませるのにも向いています」  
まだスタートしたばかりなので、船長もあちこちのポイントを探りながらの釣りとなる。水温が高く、群れも広く散っているようだ。  
当日は必ずしも好調とはいえないものの、鶴岡さんは移動ごとに1枚、また1枚と数を重ねていく。  
12時納竿。釣果は18×26センチを2×11枚で鶴岡さんがトップ。  
「いや〜厳しかったけど、久しぶりの釣り場を十分堪能しました。これから水温が下がってくれば釣果も上向くでしょう」と言いつつ、  
「デッキステージは2万円台の価格も魅力、サブロッドにも最適です」と付け加え、釣り場をあとにした。

「タナはほぼ底なので、もう1ランク下げたARに替えます」  
鶴岡さんが言うには、アタリを出す竿と掛ける竿は別、うまくマッチさせるのが攻略のカギになるとのこと。  
しばらく底を丹念

南房洲ノ崎栄ノ浦港の早川丸がカワハギ乗合を始めたのを機に、関東周辺のカワハギ釣り場がすべて開幕となった。このエリアを得意とする鶴岡克則さんが待つてましたとばかりに釣行したのは9月上旬のことだった。  
今回はがまかつから新しく発売された「デッキステージカワハギ」を持参、今期初釣りの南房エリアでどんな釣りをさせるかも楽しみだ。  
「スタンダードタイプの竿ですが、ポテンシャルはなかなかですよ」と出船前から気合は十分。  
5時半に出船し、まずは港から15分ほど走った館山湾内の水深15メートル前後からスタートとなった。新製品は調子によって3タイプ、通常は中間モデルから様子を見ていくものだが、「硬いほうのACから使います。私の場合、これでアタリの出るタナを探していきます」と言いながら、しばらくして20センチ級の1枚目を釣り上げる。そのまま使い続けるのかと思ったら、

「アタリはほぼ底なので、もう1ランク下げたARに替えます」  
鶴岡さんが言うには、アタリを出す竿と掛ける竿は別、うまくマッチさせるのが攻略のカギになるとのこと。  
しばらく底を丹念